

通報等受理の実績

◆東京都及び都内区市町村における相談・通報・届出件数(重複あり)

	【平成24年度（10月～25年3月）】	【平成25年度（速報値）】
○ 養護者によるもの	236件（全国）3,260件	300件
・通報・届出者	： 本人62件、相談支援専門員・福祉施設従事者71件	
・虐待者の続柄	： 父27件、母28件、兄弟姉妹28件、夫13件	
○ 施設従事者等によるもの	107件（全国）939件	169件
・通報・届出者	： 本人31件、他の福祉施設従事者9件 家族・知人・近隣住民 32人、当該施設職員等 14件	
・施設種別	： 障害者支援施設 18件、共同生活介護 16件	
○ 使用者によるもの	35件（全国）303件	60件
・通報・届出者	： 本人13件、職場の同僚4件、相談支援専門員・福祉施設従事者3件	

東京都のホームページでの情報提供

○東京都障害者サービス情報（事業者情報、運営基準等のお知らせ）

<http://www.shougai Fukushi.metro.tokyo.jp>

○東京都福祉保健局（「障害者」の項目 総合支援法、虐待防止法）

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shougai/index.html>

体罰の大義名分と実態

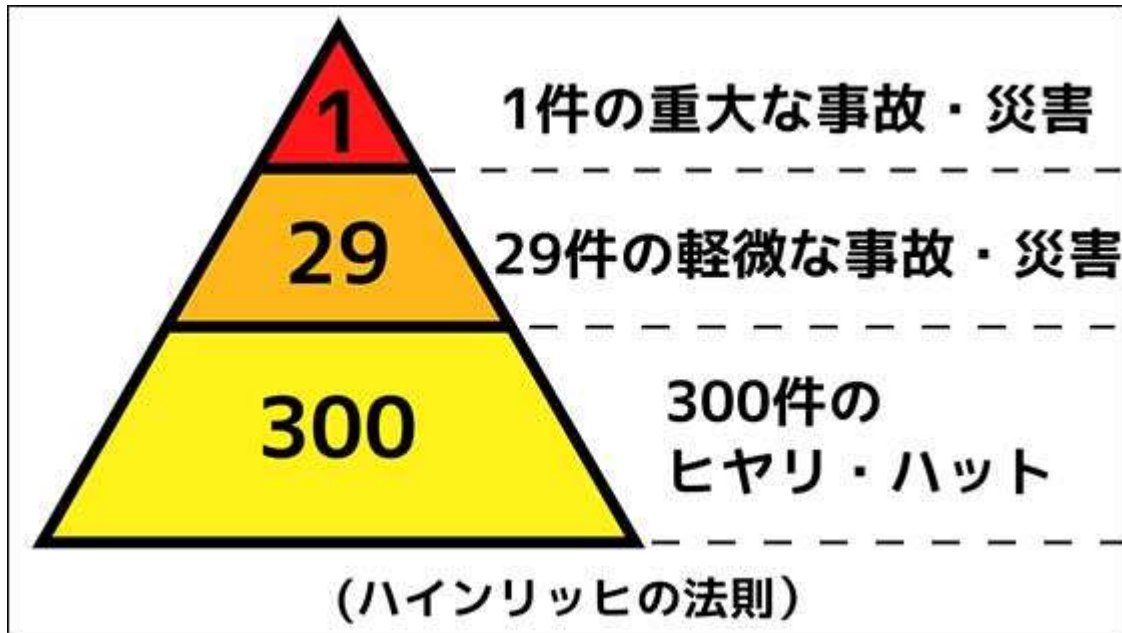
教師の体罰に関する研究（松井豊氏/現筑波大学教授、社会心理学）

	大義名分	職員の常套句	実態
目的	愛の鞭	「こいつのためにやっているんだ」	自身の攻撃性の発露
方法	これしかない	批判されると「じゃあ、どうするんだよ。お前やってみろよ」	スキルの欠如
効果	これが効く	「俺の言う事には皆、よく従うよ」	職員への恨みの増加 いじめの増加など

※多くの体罰は、利用者の指導が目的と言っているが、実態は職員が余裕を失い、一時的な感情に走って暴力をふるう場合が多い。

※どんな大義名分があろうと、利用者の立場からすれば暴力であり、虐待以外のなにものでもない。

体罰に感謝している利用者はいない。



一件の大きな事故・災害の裏には、29件の軽微な事故・災害、そして300件のヒヤリ・ハット（事故には至らなかったもののヒヤリとした、ハットとした事例）があるという法則です。

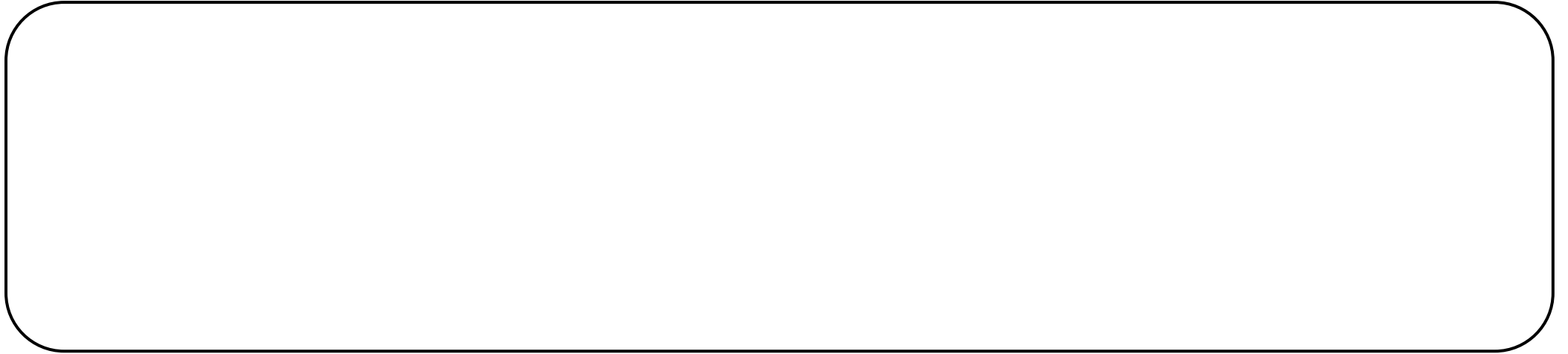
例えば、ある工事現場において1件の重大事故が発生した場合、その現場では過去に軽微な事故が29件発生しており、さらには事故につながっていた可能性のある事例が300件起きていたということになります。逆に言えば、300件の「ヒヤリ・ハット」する事例が起きれば1件の重大事故が発生するという事にもなります。

重大事故・災害の防止のためには、事故や災害の発生が予測されたヒヤリ・ハットの段階で対処していくことが必要となります。

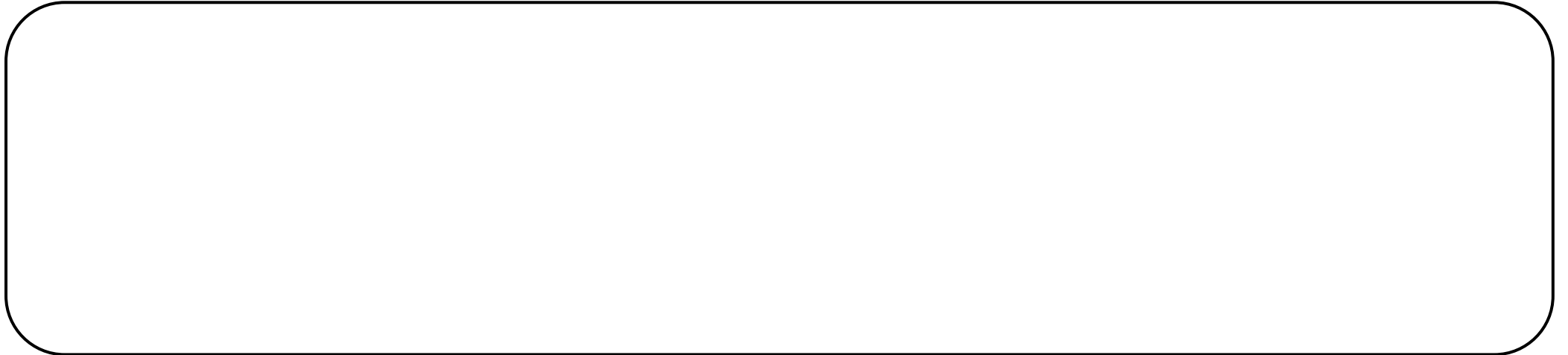
ポイントとしては、その数字が重要なのではなく、事故・災害が同じ原因に根ざしているという事実が重要という事です。つまり、膨大なヒヤリ・ハット事象の原因を調べてそれを潰していくことで、重大な事故や災害が防げるという事になります。

願いが叶うなら？

自分の働く場所をどんな場所にしたいですか？



職場では、どんな自分になりたいですか？



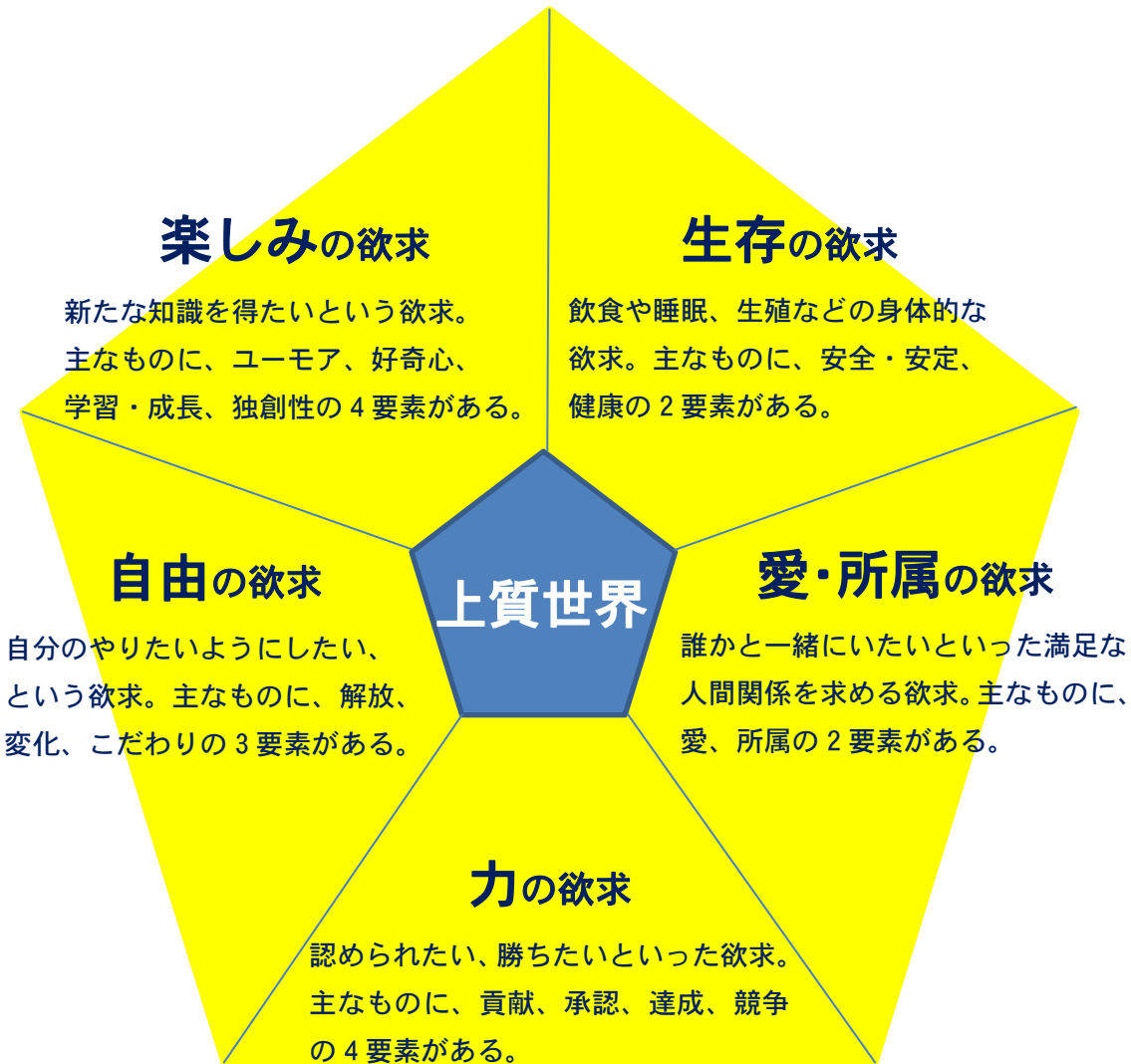
Do（やり方）と Be（あり方）

Be（あり方）の表現

言語	
ネガティブ	ポジティブ

非言語	
ネガティブ	ポジティブ

基本的欲求



① _____

② _____

最近怒ったことを覚えていますか？

○すごく頭にきたこと

○まあまあ腹がたったこと

○軽くイラッとしたこと

ストレッサーとストレスについて

